

作期別イグサの形態性状について

(第1報) 作期別イグサの出芽時期と性状

住吉 強・田中忠興・中村 駿・成清 潔

(福岡県立農業試験場 筑後分場)

福岡県のイグサ栽培は普通刈栽培が主体であるが、最近、労力配分や跡作水稲などから、早、中間刈栽培が約40%近くを占めるようになった。そこで畳表原料として各作期別イグサの性状を把握するため、4段階の作期を設定し、出芽の早晚と形態性状の関係を調査し、畳表品質向上の基礎的資料を得たのでその概要を報告する。

1. 試験方法

(1) 供試品種 あさなぎ

(2) 刈取時期、出芽月日及び採取月日

刈取時期	5月31日	6月15日	6月30日	7月15日
出芽月日	4月 1, 10, 20日	4月 5月 15, 25, 5日	5月 1, 10, 20日	5月 6月 15, 25, 5日
採取月日	出芽から30, 40, 50, 60日後に採取			

(3) 施肥量 (kg/a) N 4.5 P₂O₅ 1.3 K₂O 4.1

2. 試験結果及び考察

出芽時期別イグサの茎長、性状を第1表に示した。5月31日刈は4月1日、4月10日出芽が茎長が98, 109cmと短く、茎の太さは細く、硬くてもろい劣悪な性状であった。これに対し、4月20日出芽は、茎長が111cmとやや長くなり、茎の太さは太く、剛性度、抗張力は弱く、伸度が大きいやわらかい性状となった。6月15日刈では4月15日出芽に比較して、4月25日、5月5日と出芽時期がおそくなるにつれて茎長が長く、茎の太さがやや太く、わずかながら硬い性状となった。6月30日刈では5月20日出芽が茎長も133cmと長くなるとともに茎の太さはやや細く、剛性度、抗張力は強く、伸度も大きい弾力性のある良好な性状であった。7月15日刈では5月25日出芽が茎長が145cmと最も長く、硬くて、弾力性があり充実度の高い性状で畳表原料としては最適なものとなった

さらに、各刈取時期別最長茎イグサの品質評価を肉眼観察により行った結果、5月31日、6月15日刈は非常

第1表 出芽時期別イグサの茎長、性状

刈取時期	出芽月日	茎長 (cm)	茎の太さ (mm)	剛性度 (g/mm ²)	抗張力 (kg/mm ²)	伸度 (%/mm ²)
5.31	4 1	98	1.27	4.5	2.23	0.54
	10	109	1.39	3.9	1.94	0.61
	20	111	1.62	3.4	1.77	0.66
6.15	4 15	108	1.56	3.7	1.80	0.63
	25	120	1.57	3.3	1.82	0.69
	5 5	129	1.59	3.2	2.02	0.70
6.30	5 1	118	1.52	5.2	1.79	0.64
	10	129	1.52	5.0	2.14	0.75
	20	133	1.45	5.8	1.94	0.77
7.15	5 15	127	1.44	8.7	2.16	0.71
	25	145	1.42	6.5	2.42	1.01
	6 5	139	1.37	6.3	2.21	0.56

にやわらかくて、色調も青味が弱く、やや赤味がみられ、評価は非常に劣った。これに対し、6月30日、7月15日刈は茎の太さのばらつきが少なく、性状も良く、色調は青味が強く、品質は非常に良好であった。

総 括

畳表原料として利用できる作期別イグサの最適出芽時期は早刈栽培（5月31日、6月15日刈）では、刈取前40日頃、中、普通刈栽培（6月30日、7月15日刈）の場合は刈取前50日頃であった。また、早刈栽培の場合、最適出芽期間が短く、出芽が早いと品質的に劣悪であったこれに比べて、普通刈栽培では最適出芽時期の期間が長く品質的にも安定していた。

早刈栽培は普通刈栽培に比べて、畳表原料としてはすべての面で劣った。このため、6月中旬以前の刈取はなるべく避けて6月下旬以後の刈取を行うことが品質向上につながると思われる。